

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名	土肥伊都子	所属	神戸松蔭女子学院大学
研究集会等名称	公益社団法人日本心理学会 ジェンダー研究会 公開研究集会 日本心理学会第81回大会 公募シンポジウム アクティブに学ぶジェンダー(2) —授業を通して学生に伝えたいこと—		
成果概要	<p>1) 参加人数 会員 12名 (うち認定心理士 1名) 非会員 2名</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 ○公開研究集会の目的 2015年度に、本研究会の研究集会として初めて行った、ジェンダーに関連するアクティブ・ラーニングについての研究集会では、アクティブ・ラーニングの取り組みのいくつかを紹介し、その効果と今後の課題などについて議論した。今回は、授業の内容の紹介にとどまらず、さらにそれを発展させて、授業によって何を、どのようなエッセンスを学生に伝えればよいのか、アクティブ・ラーニングをするねらいについて、議論することを目的とした。</p> <p>○公開研究集会の実施内容・成果・将来計画 赤澤淳子先生からは、昔話は、人の口から口へと伝わってきた口承的な物語であり、また、時代の流れにより改変されてきたという歴史もある。そういった意味で、昔話は、その当時の人々の生活や考え方を知る手がかりともなる。今回は、白雪姫を描いた4つの昔話や映画などをジェンダーという視点から分析する授業を通して、学生が何を得ているのかについて紹介された。 上野淳子先生からは、アクティブ・ラーニングは授業という枠組みにとどまらない。昨年度、話題提供者のゼミでは、先の赤澤氏の発表にある4つの白雪姫を比較検討する授業を行った。ゼミ生はさらなる学習を重ね、それらの内容を所属大学で行われた「全学ゼミコンテスト」で発表、入賞した。授業での実践がどのように学生に解釈され、発展していくかの実例として、その過程が紹介された。 滑田明暢先生からは、家事分担やワーク・ライフ・バランスは、個人とその周囲の人々の生き方や社会課題と関わる問題である。その一方で、意識することなしには身近なこととして見えてきづらい事象でもある。オンライン知識共有コミュニティのフィールドワークなどを実施し、より現実的な事象をもとに考察することを目指した授業実践とその成果が報告された。 青野篤子先生からは、ジェンダーの学習には、基本的な概念を理解し、自ら問題を発見し、それに取り組むことが求められるため、アクティブ・ラーニングがふさわしい領域である。どのような問題にどのような方法が適しているか、学習者はそこから何を学ぶことができるかを考えることが重要であることが指摘された。 将来計画としては、アクティブ・ラーニングによるジェンダー教育によって得られた成果を、より明確に把握するための指標を複数提案すること、またそれによって測定された成果を発表して授業の動機づけを高めることに挑戦するつもりである。</p>		

研究集会参加者リスト

〈研究会名〉				
日本心理学会ジェンダー研究会				
研究集会開催日： 2017 年 9月 22 日(金)				
	氏名	所属	会員	認定 心理士
1	青野篤子	福山大学	○	○
2	赤澤淳子	福山大学	○	
3	伊藤裕子	文京学院大学	○	
4	宇井美代子	玉川大学	○	
5	上野淳子	四天王寺大学	○	
6	荻野佳代子	神奈川大学	○	
7	櫻坂英子	駿河台大学	○	
8	澤田忠幸	石川県立大学	○	
9	武知優子	神戸女学院大学	○	
10	土肥伊都子	神戸松蔭女子学院大学	○	
11	滑田明暢	滋賀大学	○	
12	松並知子	武庫川女子大学	○	
13	豊田弘司	奈良教育大学	○	
14	平井美佳	横浜市立大学	○	
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				

(様式5)

2017年9 月22 日

日本心理学会研究会 2017 年度会計報告書

研究会名称 公益社団法人日本心理学会 ジェンダー研究会

研究会番号 研17008

助成金額 |¥30,000

年 月 日	項 目	金 額
2017年9月14日	資料印刷（シンポジウム配布資料）	¥40,240

支出合計 ¥40,240